青年部表彰制度

最優秀青年部アワード開催のお知らせ

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
　平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて標記表彰制度につきましては、11 月 18 日 19 日に行われた第 43 回日板協次世代研究会 in 秋田においてご案内させていただきました。
この度、本表彰制度について改めて下記の通りご案内させていただきますので詳細ご確認の上、期日までに申請いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

・2024 年度 日板協/全板連青年部新規事業　最優秀青年部アワードについて
・（別紙）最優秀青年部アワード チームワーク部門について

以上

2024 年度 日板協/全板連青年部新規事業 第 3 回最優秀青年部アワードについて

2024 年 1 月 30 日（火）
日板協/全板連青年部
最優秀青年部アワード担当役員一同

① 本表彰制度の経緯

最優秀青年部アワード（以降、本表彰制度）は各都道府県板金工業組合青年部の活性化や、各々の活動への動機づけに繋げることを目的として年に 1 度、全国青年部部長会議の場において日板協/全板連青年部部長が申請のあった都道府県板金工業組合青年部の活動のうち最も優秀なもの 1 つを表彰するもの。

本表彰制度は、その受賞を契機として魅力的な活動内容が他組合青年部に共有され、また受賞組合青年部においても青年部活動の意欲増進に繋がり、内外において青年部活動の価値向上に資するものと期待される。

② 提出方法

本表彰制度は別紙記載の“チームワーク”・“技術”・“マネージメント”の 3 部門より、選ばれた 1 部門が 1 年間の募集課題となる。

その年の募集課題部門については当該年度の全国部長会議の場において発表され、別紙記載の申請様式と採点項目に基づき評価される。

③ 提出先

「日板協/全板連青年部最優秀青年部アワード」と題して、各都道府県板青年部部長が、当該組合所属ブロックのブロック長にデータ形式で提出する。

④ 提出期限

2024 年 11 月 30 日（土）

⑤ 表彰日時

2025 年 4 月開催予定の第 26 回全国青年部部長会議

⑥ 表彰内容

記念楯および表彰状

⑦ 本表彰制度に関する問合せ先/方法

「【問合せ】日板協/全板連青年部最優秀青年部アワード」と題して、各都道府県板青年部部長が、当該組合所属ブロックのブロック長宛にメールにて問合せを行う。

最優秀青年部アワード

チームワーク部門

＊チームワーク部門アワードを行う意義

今回のテーマは、定めた目標に協力して取り組み団体力の強化に挑む活動です。すでに各組合青年部の年間行事内で該当する活動もあることと思います。その活動をアワード提出形式に充てて発表願います。講習会・交流会・オリエンテーション・祭事など、そのほかの事業や行事も募ります。

それぞれのチームワークが最優秀青年部アワードを通じて共有できると共に、組合活動から遠のいたメンバーや青年部員候補・OB もまきこみ改めて組合員で良かったと思える活動のきっかけを作って頂きたいです。この機会に多数ご参加ありますことを願います。

1. 事業目的	何を目的として開催するか。	20 点
2. 参加人数	参加人数と参加率。 本事業を通じて青年部・親組合へ入部・入会した場合は 1 名につき 10 点加点。	20 点＋加点
3. 団結力	定めた目標・目的に協力して取り組めているか。	20 点
4. 発表力	開催する提出書類がフォーマットに沿って作成できているか。	20 点
5. 検証	参加者代表による検証文の添付と、その内容。	20 点

基本点　１００点に　2. 参加人数の加点数を合計した採点形式です。

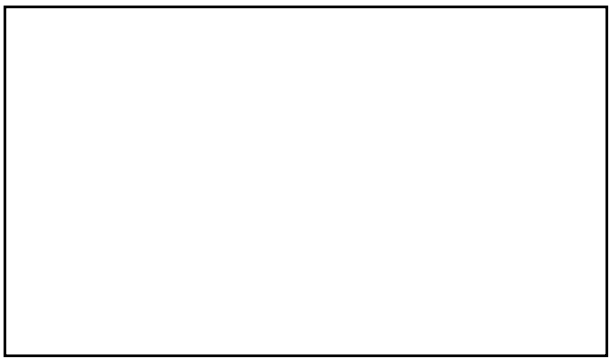
以下　例として

〇〇県板金工業組合青年部
部員数 26 名　　参加者 17 名（内親組合 2 名）
＊参加者は青年部員に限らず、親組合員でも良い。

役割　　事前会議
人数の集計・案内文作成
予算額算出・開催会場選定
サポート人数の集計及びカメラマン
懇親会段取り

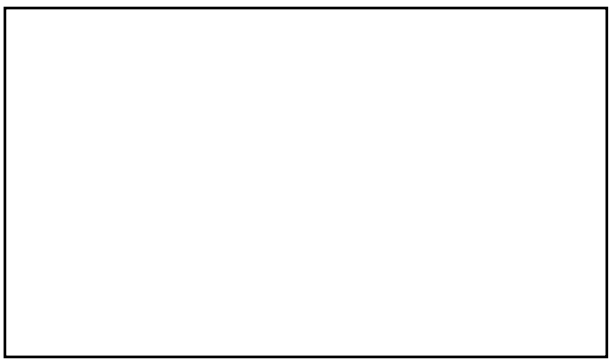
事業・企画の会議

（事業開催までの流れを記載）



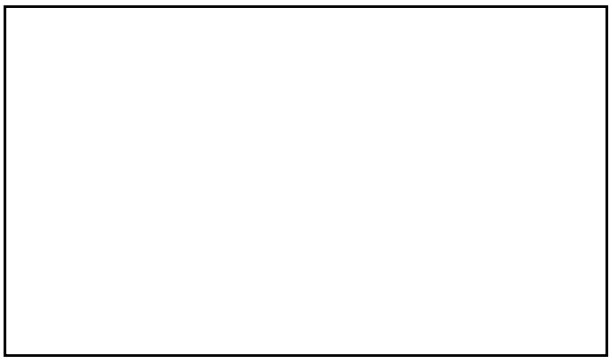
事業開催挨拶風景

（当日の雰囲気や状況などを記載）



参加者の事業風景

（参加人数や役割を記載）



後片付け・清掃

(参加者それぞれが主体的に行動してかを記載)

懇親会

(事業を終えての想いなどを記載)

今回の事業への検証

　今回の最優秀青年部アワード・チームワーク部門を通じて建築板金の日に〇〇実習会を行いました。事業を行うにあたり事前の会議で意見を交わし合いレクリエーションからチームワークに関わる取り組みをしては如何かという意見が多く、さらに話を進めた結果この内容となった。事業当日は 19 名参加。
　当日は参加者それぞれが協力的に取り組み全体的にスムーズに進行できてよかった。事業後懇親会の席では次回以降での事業内容などの意見も複数あった。今回の事業で育み培われた精神を伝えて今後に繋げていきたいと思った。
　以上を最優秀青年部アワード・チームワーク部門作品として提出致します。

＊写真の枚数制限はありません。

しかし公平を期するために資料形式はある程度厳守し、掲載写真 1 枚ごとに内容の説明をしてください。